

ウラ指導課題文作成コンペ2006

参加者番号「014番」

坂井正周（サカイ マサチカ）

バンドルネーム：Ocha

課題タイトル

市街地に建つ建築教育普及センター

サブタイトル

（指定歴史的建造物のある建築教育施設）

設計趣旨

この課題は、ある地方都市の市街地において、建築教育のできる施設を計画するものである。この施設は地域においてランドマークとして地域住民親しまれてきたかつ指定歴史的建造物として保存されてきた木造石張造倉庫（以下「既存部」という。）を活用して建築に関する知識や歴史について学習・体験できる「建築空間体験部門」と建築を学ぶ学生や建築士資格試験を受験する者の自己啓発を支援するための、「建築学習部門」からなるものである。また地域のイベント時などにおいては南側の運河公園より住民に対して開かれた休憩施設として活用する場となるものである。

今回のコンペについて模範解答例提出までの感想

コンペという性格を考慮して、推定200名程の提出案を想定していました。数ある提案においてまず審査員の目に留まる特徴がないと予選通過は困難であると予測されていたので、まず、比較的歴史のある中規模の地方都市をいう条件設定のもとで札幌市隣の小樽市に於いて建設するという仮定から始めてみました。小樽は運河公園という全国的に知名度の高い公園が駅より徒歩20分以内の市街地に属することからこの運河公園を隣地にする場所を設定。次に運河沿いに於いて小樽市指定歴史的建造物として多数保存指定されているが、しかし近年の観光都市としては斜陽化が進み、観光客減により空きテナントスペースとして借り手がつかないまま放置されている石造り倉庫が多数あるという現状に着目して、今回の課題である建築教育普及センターという用途をさらに一歩進めて観光資源となりうる建築教育施設で想定してストーリーを進めてみました。計画にあたり、ランドマークである石造り倉庫を数棟敷地内に取り込み保存樹木も含めて運河公園に面して外部空間と内部空間を一体的に利用できる配置計画であること、施設のシンボルである石造り倉庫が建物内部からも見える意匠計画であること等をストーリーに盛り込んでいきました。基本的に使用者である市民が主体となるような施設ということでギャラリーなども貸しギャラリーとして搬入搬出動線は施設サービス動線とは切り離しています。シアターは映画のほか、講演会等の多目的利用することは考慮してますが大掛かりな舞台装置或いは大道具の搬入は要しない利用目的という設定です。2階は自主勉強場（サークル室）や専門家による講習会会場（研修室）、建築図書に限定した資料室という設定で、静の空間としています。エレベーター前ホールのラウンジとサークル室はアトリウムと石造り倉庫及び借景となる運河公園との見下ろし視線の繋がりを持たせて常に歴史的建造物を視界に認識することで建造物の存在する時間の長さを意図的に養う効果を期待しています。コンペ計画作成にあたり実際に現存する市街地へ赴くことでリアルなストーリー展開とキャスティングボードがはっきりとしてきますので、机上だけでなく見学視線のできる現地で課題文を構想する行為の重要性を今回のコンペをエスキスする上で重要なプロセスとして捉えられました。また、国語力での集大成として今まで学んできたことをある程度生かされた計画案として提出できたと思います。

お手数かけますが御審査を宜しくお願い致します。